

風早の本だより

北条高等学校図書委員会

令和元年 7月号

テストも終わり、いよいよ夏休みが始まります。この機会に、前から読みたいと思っていた本や、今まで読んだことのなかった分野の本を読んでみませんか？ 新しいものの見方の発見や感動に出会えるかもしれません。



お願い 学期末ですので図書の整理をします。期限を過ぎ

ている本は、早急に返してください。また総合研究の貸出の目安は3か月です。

1学期に借りた人は、夏休み前に一度返却してください。 継続して借りたい時には、図書室で延長の手続きをしてください。よろしくお願いします。

★図書室の展示より★

図書は、そのテーマによって10分野に分類されています。例えば、0は百科事典や全集などで、9は北条高校で一番読まれている文学です。さらに日本文学は910、英米文学は930…のようになります。（皆さんが借りるときに書く請求番号のことで。）自分で選ぶとついつい同じ分野に偏ってしまいがち…。

そこで3年次生の図書委員で、0～9までの各分野から、面白そうな本をピックアップしてみました。

いつもと違う出会いが待っているかもしれません。ぜひ手に取ってみてください。

分類については、図書館オリエンテーションで配布した『らいぶらり』に詳しく載っています。



0	総記
1	哲学・宗教
2	歴史・地理
3	社会科学
4	自然科学・数学・医学
5	技術・家政学
6	産業
7	芸術・美術・スポーツ
8	言語
9	文学

本の内容やテーマにより、「類」という最初の10の区分に分けられます。

★先生方のおススメの本とメッセージ★

森 美千代 先生 (地歴・公民)

① おすすめの本は何ですか。

書名 (走れT校バスケット部)

著者名 (松崎 洋)



バスケット部キャプテンとして関東大会2位の成績を残した田所洋一は、バスケットの強豪校私立H高校へ、特待生として入学しました。しかし、部内でいじめに遭い、部活をやめ、学校を去ることになります。その時に父親が言った言葉に、心を打たれました。田所君は都立多田野高校、通称T校に編入します。新たな仲間とともにバスケットボールに打ち込み、過去を乗り越えていきます。登場人物が個性的で、涙あり、笑いありの青春小説です。田所君は教師を目指します。そんな彼に、父親が伝える言葉には重みがあり、どきっとさせられました。

② 北条高校生にメッセージ

高校3年間は、過ぎ去ってしまうとあっという間だと思います。私の知り合いに、北条高校の卒業生の方が何人かいらっしゃいます。みな、とても人間的に魅力的な方ばかりです。北条高校に赴任して、その方たちが魅力的な理由が分かる気がしています。北条高校は、心を磨ける素敵な学校だと思います。青春時代は、楽しいことも、大変なことも、いろいろあると思います。どうか、何があっても腐らずに、明るい気持ちをできるだけ持って、自分の可能性を広げていってほしいと思います。もちろん、健康第一で。そして、言葉を大切にしてください。

★新聞を読もう！ ～Iの力を伸ばし、Weの世界を広げるために～ ★

最近の新聞を中心に、1・2年次生の図書委員で気になる記事を紹介しています。

防災やゲーム依存症、山城の石垣に聖火リレーや仮想通貨、そして千円の恩返し…など、現代社会の課題や話題の記事を取り上げました。



★北条高生のこころに残る本★

○颯 副グループ長 3年次生 舟川柚梨菜さん

『あと少し、もう少し』（瀬尾まいこ）

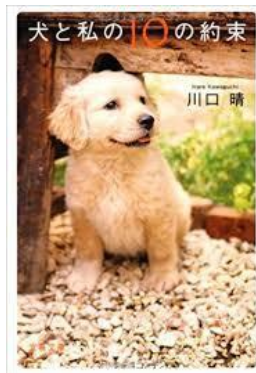
昨年の読書感想文の本校課題図書でした。駅伝をテーマとしたもので、一人一人個性の違うメンバーが、すれ違いながらも一本の襷（たすき）を通して一つの目標に向かって切磋琢磨する話です。

一人一人のストーリーが、1区、2区、3区…と区間ごとに描かれているのが面白い構成だと思います。

この本を読んで、「集団で一つにまとまって何かを成し遂げる」ことの大切さなどを学びました。ストーリーの展開もわかりやすく、読みやすいので、ぜひ、読んでみてください！！



*瀬尾まいこさんの『そしてバトンは渡された』は今年の本屋大賞です。こちらもぜひどうぞ読んでみてください。



○隼 副グループ長 3年次生 渡部 陽菜さん

『犬と私の10の約束』（川口 晴）

私がこの本を紹介する理由、それは、この本を通して「命の大切さ」を感じることができるからです。

例えば「私を信じてください。それだけで私は幸せです」「言うことをきかないときには理由があります」などを読むと、犬や動物に対する接し方を知るだけでなく、自分自身について見つめなおすことができます。

犬を飼っている人でも、飼っていない人もでも、ぜひ読んでください。たくさんのお話を学べると思います。

★読書感想文・全国課題図書★

①この川のむこうに君がいる (濱野京子・理論社)

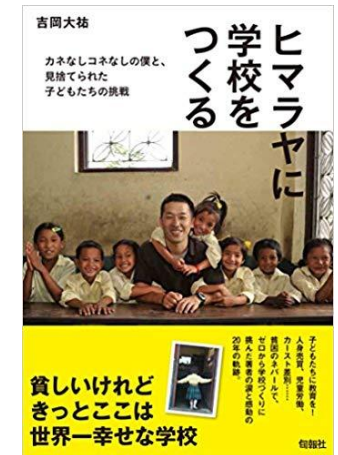
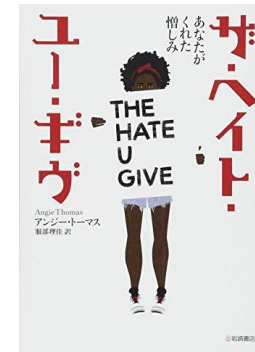
②ザ・ヘイト・ユー・ギヴ：あなたがくれた憎しみ

(アンジー・トーマス岩崎書店)

③ヒマラヤに学校をつくる

～カネなしコネなしの僕と、見捨てられた子どもたちの挑戦～

(吉岡大祐・旬報社)



今回は特に③について紹介します。

「トウガラシを体にすりこんで暖をとり、生活のために我が子を売る。」22歳でネパールに渡った著者は、そんな究極の貧困を目の当たりにして大きなショックを受けます。

「貧困から抜け出すには教育しかない。その支援をしたい。」

教育者でもなければ、鍼灸師の資格を取ったばかりで、社会人として働いた経験もない自分に何ができるのか……。

ゼロからのスタートで貧困家庭の就学支援をスタートさせ、15年前に「クラーク記念ヒマラヤ小学校」を開校させた筆者。

「社会から放り出された子どもたちが教育によって新しい命をふきこまれたかのように鮮やかに変わり、羽ばたいていく姿」を間近で見られた喜びを語るこの筆者は、なんと愛媛県松山市出身です。

ぜひ皆さんも、吉岡さんの苦勞と情熱と希望の詰まったこの本を読んでみませんか。